

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	共育学舎とむ∞とむ			
○保護者評価実施期間	令和8年 6月 1日		～	令和8年 6月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和7年 7月 1日		～	令和7年 7月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 9月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもを大人の基準、社会通念に合わせるのではなく安心して できる環境の中で子ども自身が感じ、考え、動き出すことを大 切にしている。 「出来るようにする」支援ではなく「自ら、育っていく力」 を支えることが強みです	子どもがやりたいこと、やりたくないことを自分で選択でき るようにしている スタッフが先回りして答えを出しすぎないようにして、評価 より本人の気づきを大切にしている 選べる・待つ・見守る・安心して過ごせる	さらに子どもとの対話を重ねてどう過ごしたいか子ども と考える
2	構造化された空間や設備に子どもをあわせるのではなく、森 や自然の中で、遊び、過ごし、自分の感覚を取り戻せる環境 を大切にしています。	森の中や屋外など、自然を感じられる環境を活動の場として 活用している。 自分たちの活動を子どもたちがミーティングで決めていきま す。物事を自分事として捉え主体的に行動できるよう自分で 決めることができる 森・自然・地域の中で、自由で過ごせる余白を作る	森や自然環境を活用した活動の幅を広げる
3	この場所から家庭・学校・地域の支援へつながる 子どもの支援だけでなく家庭全体を地域で支える「複数の入 り口」があることが大きな特徴です 学校との情報共有や連携を大切にしながら家庭や地域ともつ ながる、その子に合った支え方を一緒に考えていきます	保護者の不安や悩みを受け止め家族支援も実施している。地 域子ども食堂や地域の方たちも参加できるプログラムやイベ ント、また、地域のコミュニティのイベントに参加し多様な 価値観と触れる場を作っています 必要に応じて行政、教育、地域の関係機関とつながる 情報共有・保護者支援・関係機関との連携を行う	スクールソーシャルワーカーや行政、他機関等とのネッ トワークを強化する

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「子どもを待つ」「自由に過ごす」ことが支援として本質的 な意味合いが伝わりにくい 大切にしている支援の価値を言語化する必要がある	私たちの実践の価値を客観的に示す仕組みがまだ十分でない 大切にしている価値観や実践を誰にでもわかる形に言語化・ 可視化する途上にある	支援方針や実践を言葉に資、保護者・学校・関係機関に わかりやすく伝える 理念や実践の言語化・可視化をする必要性がある
2	安全管理や事故防止に一定以上のスキル・知識・準備が必要 子どもによって自然環境への興味や過ごしやすさが異なる	安全な環境づくりに十分な配慮、注意が細心に注意を払う必 要がある	屋内外を柔軟に使い分けながら、安全面にも配慮した環 境づくりが必要
3	地域との連携、多機関との連携に労力と時間を要する 共有の方法やタイミングを整理し、関係機関との役割分担が 複雑になりやすい	個別のつながりは生まれているが、それを組織として継続で きる仕組みへ発展させている団塊であること	学校・家庭・地域・関係機関がそれぞれの立場から子ど もをさあさえられる連携の仕組みを整える